

て、イタリアの復興運動に寄与できるようなストーリーに脚色した台本なのである。

研修会使用の教材

ミラノ・スカラ座 1991年6月・・指揮リッカルド・ムーティ

主な配役

- *アッティラ(フン族の王)・・サミュエル・レイミー (Samuel Ramey)
- *エツィオ(ローマの将軍)・・・ジョルジョ・ザンカーナロ (Giorgio Zancanaro)
- *オダベッラ(アクイレイアの貴族の娘)・・シェリル・スチューダー (Cheryl Studer)
- *フォレスト(アクイレイアの騎士、オダベッラと恋仲)・・カルディ・カルドフ (Kaludi Kaludov)

シェリル・スチューダー (Cheryl Studer) について

1957年ミシガン州ミッドランドに生まれたアメリカのソプラノ歌手である。国内で研鑽を積み、その後ウイーン音楽アカデミー(ウイーン国立音楽大学)でハンス・ホッターに師事した。1980年ミュンヘン国立歌劇場のメンバーになる。1984年シカゴ・オペラで「カルメン」ミカエラを歌って、アメリカ・デビューを果たす。同年ベルリン・ドイツ・オペラのメンバーになり、1985年バイロイト音楽祭で「タンホイザー」エリザベートでデビュー、'86、'87、'89同役を歌い、また1988年'89、'90「ローエングリン」エルザも歌っている。(バイロイト誌1991年)そして、1989年バイロイト引越し公演、東京渋谷オーチャードホールのこけら落とし公演「タンホイザー」でもエリザベートを歌った。

また、イタリアオペラでも実力を発揮している。いわゆるソプラノ・ドラマティコ・ダジリタの声質で、ドラマティックな迫力とコロラトゥーラの妙技を兼ね備えた歌手である。

「アッティラ」を振り終わったR・ムーティ、ヴェルディを熱く語る。

Va Pensiero...はヴェルディが「ナブッコ」を作曲するきっかけになった歌詞である。そして、このオペラがイタリアの革命を望んでいる人々の間で成功を収め、彼らの熱狂がヴェルディを国家統一運動へと導くことになったのである。

「アッティラ」もまた大変に愛国的な切り口を見せるオペラである。調性の選択、テンポの速さ、簡潔で要を得た作風は勢いと力を示していて、まるで一連の国歌やハイレベルのマメーリの国歌などを集めた大全のようだ・・・

アッティラとは何者だったのかを明確にすることは難しい。今日でもまだ指揮者や音楽家や演出家がアッティラという人物の姿や、歴史上ではアッティラを討伐したとされる偉大な武将エツィオについて議論を交わしている。

オペラではアッティラはオダベッラと他の登場人物によって殺害される筋書きになっている。勿論ヴェルディのスコアではアッティラは偉大な人物であり、虎の毛皮を身に着けた粗野で下品な登場人物ではない。むしろ、彼は大変貴族的な素養があり、他人に対して威圧的で名誉意識を持っている。また、彼の情熱や愛、生きる願望と征服欲もこのオペラには描